

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600499		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム 五島		
所在地	長崎県五島市大荒町1210		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成 22年 1月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 12月 18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人・家族の希望を出来る限り取り入れながら、利用者のペースで支援していくことを基本にケアを行っています。また、地域との交流を深めるためにも外出の機会を多くするため、郷土の催し物、季節の風物見学に出かけるようにしている。さらに、生き物(メダカ、フナ、ドジョウ、金魚)を飼育し利用者の生きる糧にしている。さらに事業所内には、昔の生活用品や野山に自生する昔を思い出すようなアケビや栗などを飾り、季節感をだしている。職員のモットーは、『利用者も家族も入居するならグループホーム五島』に入りたいと言われるように、人の心の温かさがあふれる事業所を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの中へ一歩入ると、思わず「きれい！」とつぶやいてしまう環境が造られていた。季節感を味わって頂きたいと、廊下等の飾り物は頻回に変えている。廊下を歩くだけでも会話が弾み、自然と生活リハビリにもつながっている。外部評価の当日、ちょうど保育園の子ども達が来訪し、可愛い踊りを披露されていた。“保育園の子ども達との交流をしたい”と言う願いが叶い、ご利用者の更なる喜びが増えておられた。今回の自己評価の記録の中に『未開発の国で迷子になった自分を想像したケア』を目指している「利用者の方は「ここはどこ？」と不安でいっぱいである。まず、ここは安全で安心できる所だと体と心で伝える・・・」等の表現があり、その感性と言葉に感動を頂いた。その表現の背景にある、職員の方々の心の豊かさ(ご利用者への思い)は、個別記録や毎月のご家族へのお手紙にも表れており、それを読まれた方々を感動を与えている。更に自己評価の中に、『おしゃべり好きな人が多く、リビング室・食堂・居室で程よくしゃべり程よく休んでいる。職員も加わり爆笑することもある』と続いている。この内容は、食堂やリビングで私達も体験させて頂いた。常に、お一人お一人の“今”を、そして“最期の時”をどのように過ごすことが幸せなのかを職員全員で考えられているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の意思を尊重し地域や自然と触れ合いながら、その人らしく生活できるよう支援します」を理念として掲げ、毎朝礼時に唱和し、念頭に置いて努力している。	運営者より、地域に目を向けた理念を考えるようにと言うお言葉も頂いており、平成20年2月、会議の時に全職員で話し合い、今の理念を作り上げた。五島の地において、今見たことのない観光地、行事等に参加することによって、ふれあいの場を持つことができるよう支援を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に入り会費を納め、市の広報・回覧板も廻ってくる。地域の活動、空き缶拾い、清掃等にも参加している。	福江ねぶた祭等の地域行事に参加している。アイアンマン大会や五島に来られた芸能人の方々との触れ合い、日本丸の見学などのイベントにも参加している。ホームにも、津軽三味線や手品師、富江ババロア会、保育園児等が訪れており、一人でも多くのご利用者が地域の様々な行事を味わえるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、「はあと・ケア」(認知症を理解していただく新聞チラシ)を近隣住民に配布。また、運動会への招待をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回実施。実績・計画報告(2か月間)年度初めには、年間事業計画、年度末には年間実績報告を行っている。その他、実施月に即した議題あり、それに対する意見、取組み、時には専門職も招いて話をさせていただく。	同法人の3つのホームと合同で開催している。ご利用者やご家族、民生委員や市の方にも参加頂いている。消防署や警察署の方もゲストで参加頂き、良き勉強の場にもなっている。外部評価後、プランターでのゴーヤやねぎの栽培に取り組みまれ、ゴーヤが陽射しを遮り、夕日の暑さも快適に過ごせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市長寿介護課職員をお呼びし報告している。会議後は、報告書を作成し長寿介護課へ提出。市運営の研修に参加し印刷物の配布にも目を通している。	社会福祉課の協力にて、生活保護制度について説明して頂いた。市の職員の方とも顔見知りになっており、相談しやすい関係が作られている。また、法人の勉強会では、保健所や消防署、警察署にもそれぞれ協力頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の鍵は夜のみで、日中は開放的である。身体拘束についての勉強会や施設独自の会議時、拘束について話し合い、拘束をしないケアを日頃から心がけている。	入居時やご家族の面会時、運営推進会議等で、身体拘束とそのリスクについて説明している。身体拘束を行わない指針及びマニュアルもあり、研修を通して職員の意識づけも行われている。日常の中でご本人の思いを把握し、好きなように行動して頂けるような支援を続けると共に、見守り支援が続けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体である五島会・老健での勉強会、施設独自の勉強会をもち、虐待についての理解を深め職員間で注意し合いながら努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、印刷物で理解はしている。本・新聞など掲載されていた場合、それを持ち寄り朝礼時、短時間ではあるが話し合っている。施設設置の資料にも時々目を通して。個々に於いては、今の所、必要性は感じられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	指導員・ケアマネが当たり十分に対応している。家族の方には解りやすい言葉で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。面会時の会話、3ヵ月毎のケアプラン作成時、又、家族交流会の時など意見・要望を聞きくみとっている。それらを踏まえて支援している。	一時期中断していたご家族へのお手紙を、前回の外部評価以降再開した。担当職員が思いを込めて毎月書いており、ご家族には好評である。「ご利用者やご家族に対して、このように協力して下さい」と言って欲しいとの要望を頂き、要望を伝えるようにした。互いの協力関係が密になり、双方の意見や要望を改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に施設に来た時、又は会議の時など職員の意見を聞いてくれる。置き去りにすることなく、早々に仕事へ反映されるので助かっている。	毎月、法人内のホームから持ち寄った意見や要望・事業計画・事業実績・運営推進会議の内容について、法人職員も出席の中で改善を図っている。3ヵ月に1度は各事業所の副主任による会議も開催し、職員の意見や要望をできる限り反映させる仕組みを取っている。職員も、日々の生活の中で積極的に意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当など頂きやりがいはある。また、年に一回の昇給は楽しみである。有給、週休2日制、勤務時間、休憩時間など申し分ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格をとるための研修、質を高めるための研修それらに積極的に参加させている。法人外に関しては島内外の研修の確保はおしماすしてくれる。法人内の勉強会は、2ヵ月に1回の割合だが、ケアに密着した内容で助かっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回は勉強会、サークル等に順番あるいは指名、任意で参加している。参加すると収穫があり、仕事に生かされます。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「未開発の国で迷子になった自分を想像したケア」を目指している。本人を知り理解する事からはじめ職員も理解してもらえよう努める。おのずと必要なこと要望、不安が見えてくる。それが支援につながっていくコミュニケーションを大切にしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子、状態を細かく報告したり、家族からの意見・要望等聞き入れる。まず、家族が職員に話しやすい関係づくり、信頼関係を築くよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の方は「ここはどこ？」と不安でいっぱいである。まず、ここは安全で安心できる所だと体と心で伝える。具体的な支援は家族の話・サマリー・本人の状態をみて必要なところからはじめる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日一緒に過ごしていると愛情が移るといふか湧いてくる。日々の生活の中で涙も笑いも感動もいただいている。利用者が介護されているという気持ちにならないような言葉かけに努めている。人生の先輩ということを忘れない。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はもちろんのこと、毎月の写真つきのホーム便り、手紙で近況を報告し緊急の場合は電話でお知らせしている。必要に応じて指示を仰ぐこともある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は家族との関わりが多く、家族にも協力をいただいている。故郷散策などドライブコースは、それぞれの郷里を重んじて決める。故郷の道・家・住人を見ると懐かしそうにしている。面会時は写真を一緒に撮り本人にも渡す。	日々、ご本人の生活歴や願い等を伺い、その願いを叶える取り組みを続けている。ご利用者より、海に“ウニ”や“ミナ”を取りに行っていたこととお聞きし、よく行かれていた海岸へ出かけた。ご自宅を取り壊す事になった方が「もう一度、家を見ておきたい」と言われ、ドライブを兼ねて出かけた。年賀状を出すなどの支援もしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在、当施設は実にいい関係が保たれている。おしゃべり好きな人が多く、リビング室・食堂・居室で程よくしゃべり程よく休んでいる。職員も加わり爆笑することも、しばしばである。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のほとんどは長期入院が多く、退院時は、老健・GH・有料老人ホームの入所が身体レベルに応じて入所可能となるよう支援している。又、入院中はお見舞い、顔出しは欠かさないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事、ラジオ体操以外は時間的な縛りはなく、好きなように過ごしている。ラジオ体操も無理じいはいはしない。買物・外出の希望依頼があれば支援している。	ご利用者との日常の会話の中から把握するよう努めている。ご利用者へのお声かけを多くし、表情や気持ちを汲みとるようにしている。食事中やお風呂の時などの会話も多く、ご本人の思いを把握している。“コーヒーが好き”“歌が好き”など、個別の生活歴や好みなども知るよう努め、計画にも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り・サマリー等で大体のことは、把握している。日々の会話の中、家族の面会等で小さなことも見えてくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方には多少の変化はあるものの大体同じパターンである。バイタル、表情、顔色、体力、食欲には気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスとモニタリングを基に、ケアマネが介護計画を作成している。緊急な変化には、その都度対応している。	計画作成担当者や管理者が、面会時にご家族へホームでの生活状況等を伝え、ご家族からの要望を伺っており、できる限り計画に取り入れるようにしている。手順書も作成しており、実施状況は個別記録やチェック表に残されている。評価は職員全員で行っており、計画作成時は、医師や母体施設のOTにも意見を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌をはじめ、バイタル、食事量、入浴の有無、排便、必要な人は排尿、水分量、月1回の体重等を記録し、日々の介護に生かしている。介護記録には、病院受診、身体状況変化、その日の状態を詳細に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に対応して色々なサービスを実施している。家族、利用者から絶賛の声が聞かれ嬉しいところだ。(豪華客船見物・祭り・検診・外食など)		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	蓮の花・コスモス見物・栗拾い・公園・ゲートボール・陶芸館など地域の恩恵を受け活気をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。定期受診はもちろんのこと、外科・整形外科も含めて必要に応じて受診している。	定期受診には職員が同行しており、受診結果についてはご家族へ連絡している。受診結果によって急を要する場合は、医師からの説明を聞いて頂けるように連絡し、一緒に同行して頂いている。母体施設の看護師とも連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師がいないため、母体・老健の看護師の協力を得ている。職員では判断できない症状の時、指示を仰ぐ。また、インフルエンザ予防接種を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できたら家族は安心する。少しでも早く退院できるよう医師・看護師への働きかけをしている。その為にも日頃からお互いの信頼関係を築いている。入院時は、利用者への顔出しも怠っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気の進行状況を見ながら早目に家族との話し合いを設けている。GHでの生活は難しいと思っていたが、よくここまで見ていただき感謝しています(肺がんの方)と喜んでいただいた実例もあります。	3年前には、お一人ホームで看取りをさせて頂いた。重度化や終末期に向けての対応は、入居時またはその都度ご家族と話し合いをしている。「最期は病院で…」と希望される方も多いが、ホームで対応できることは精一杯させて頂いている。お一人お一人の最期の時間をどのように過ごすことが幸せなのかを、職員全員で考えられており、ご家族と過ごせる環境の手配などもさせて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門職より定期的な指導訓練を受けている。また、応急手当の資料も施設に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上を目指し訓練実施している。近隣住民にも説明し協力の同意を得ている。	手作りの頭巾をかぶり、ご利用者も一緒に火災時(台風時)の避難誘導訓練が行われている。自動火災通報装置には協力地域住民の電話番号も登録されており、火災時の協力体制が得られている。また、町内の消防団とも災害時の協力体制ができており、備品等の準備は母体施設の方でも行っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これは介護員である前に人としての義務である。相手を尊重する気持ちがあればおのずと言葉かけにしても対応にしても違ってくる。人生の先輩であることを常に頭に入れている。	オムツ交換時、トイレ使用時にはドアを閉める配慮を行っており、接遇時(特に言葉づかい)については、スタッフ会議やカンファレンスでも職員同士で確認している。書類の管理含めて、全職員が徹底できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から導き出し、その人の思いをくみ取る。利用者が職員に遠慮のない人間関係を築くことで会話も広がる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は本人のペースで過ごしている。新聞を読む人、マンガを読む人、パズルをする人などいる。新聞の提供、マンガ本の提供、パズルの購入など楽しめる為の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回程度で、出張カット(散髪)をしていただいている。洋服選びは、できるだけ本人に選んでもらっている。ほつれ縫い、ボタンつけ、ゴムの入替など本人のできない所を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物の時は代替を用意し楽しんで食事ができるようにしている。また、昼食時は一緒に食事をし「利用者と職員が共に生活している」と実感を味わっている。食事の下準備、食後の後片付けなどしていただいている。	献立への要望を伺い、買い出し、下ごしらえ、盛り付け等を、ご利用者にして頂いている。懐かしい芋料理が好評で“芋ご飯”“芋のおやつ”など、頻りに食卓に登場している。年に1、2回、母体施設の管理栄養士に献立を見て頂き、アドバイスを頂いている。外食を楽しんだり、プランターで育てたネギやゴーヤを食材として使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の摂取量に応じて準備している。食事量のチェックを主食・副食と分け10単位で記録。水分は湯さましをポット・ペットボトルで各部屋に配置している。自力摂取不可能な方は職員が支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	黙っていても一人でする人、声掛けでする人、介助が必要な人それぞれに応じて声掛けし介助している。義歯の人は夜はポリデントにつけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは一人一人の排泄パターンを把握すると共にその日の状態も把握しトイレ誘導している。また、声掛けをしている。	ご本人のプライバシーに配慮して、排泄時にドアを閉める等の取り組みをするとともに、ご本人の自尊心を傷つけないよう、言葉かけにも気をつけている。トイレで排泄することを大切にしており、トイレ誘導をする事で、布パンツへの移行ができた方も多い。現在、おむつを使用している方はおられない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	芋を好きな人が多く、芋ごはん・おかず・おやつにと芋料理を多くしている。水分補給も心がけている。又、ヨーグルトを食べる人、施設内を歩く人と自分にできることを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合ではなく、省エネ・地球環境を踏まえて入浴は時間帯・曜日があらかじめ決まっている。時間帯であれば入浴日以外でも希望者は入浴している。しかし、入浴は疲れるとのことで、そういう人は少ない。	湯温や入浴時間など、ご利用者の希望を聞きながら対応している。入浴剤やみかんの皮などを湯船に入れて楽しんで頂いたり、職員の方との会話も楽しみの一つとなっている。冬場は湯温や浴室、脱衣室の室温管理にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも眠い時には好きに眠っている。夜間はテレビをみる人・自室でくつろぐ人・早々に眠りにつく人など、過ごしている。どうしても眠れない人・眠りが浅い人は主治医と相談して安定剤・導眠剤を服用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重大さを理解して事故おないよう配慮している。病院受診後、薬の変更があつて場合、申し送りノートに記録し全職員確認している。また、処方箋の確認も忘れない。薬は一包化しているため間違いはない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー大好きな人にはコーヒーを、クイズを好む人にはクイズを新聞・雑誌を廻して読んでいる。お茶好きな人は、いつでもお茶が飲めるように支援している。金魚のエサやりを楽しみにしている人もいる。気分転換に買物・ドライブの支援も実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、買物・祭り見学・花見など出かけている。ドライブは、できるだけ交互に懐かしい故郷が見られるようなコース選びをしている。	三井楽の灯台、富江、岐宿、玉之浦等、旧福江市以外の町へ出かけた。ご家族と連絡をし、ご家族とのお墓参りの支援をしたり、買い物や花見等、希望にそって個別に外出している。豪華客船の見学や外食、母体施設の裏山に栗拾いにも出かけているが、ご家族からも「ここは幸せですね」と言っている。	今後は、更なる楽しみの一つとして、港にある“グラスボード”に乗り、海底を見て楽しむ機会を作っていきたいと考えられている。職員全員、常に“五島の地において今見たことのない観光地”の情報収集をされており、その時にしか味わえない楽しみを作る努力をされている。漁師の方も多く、“グラスボード”体験が実現されることを期待したい。



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる人は、その能力に応じて所持している。その中で、スタッフと買物に出かけたり職員に買物依頼し、その分を支払ったりしている。少しでもいいから自分でお金を持ちたい気持ちを大切にしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族へ年賀状を出したり、必要に応じては電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏には食堂前に遮光ネットを張ったり、リビング室にヨシズをししたりして暑さを除いている。食堂・玄関・廊下には季節の花を飾り、廊下の柱に作った枝には季節の花・果物を飾るようにしている。(ぶどう・柿・椿・藤など)	ホーム内は、綺麗に掃除されている。会話のきっかけ作りにと職員がアイデアを出し合い、ホーム内の演出を続けている。金魚やめだかを飼ったり、昔の作業道具などの生活に身近な道具や季節のものを、職員が自宅の納屋等から持ち寄って飾っている。廊下壁面にも、季節毎の花や木々の果物をご利用者と一緒に手作りし、季節感を味わって頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のソファは一人で座って外を眺めたり、ポオ〜ツとしたり、また、ソファの前の施設便りに載っている家族の写真を見たり、会話したりと、とてもよい空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バラモン風を壁に飾ったり、家から持ってきた植木を今でも大切に育てている。故郷の日めくりカレンダーは家族が持ってきてくれたもので毎日、楽しみに破っている。元気な時、自分で縫った洋服など大切に示を見せてくれる。	馴染みの物の持ち込みが少ない方に対しては、飾り物や植木で緑を多くする等の工夫をしている。以前の生活習慣で、昼間は布団などをたたんでおく方がおられ、布団をしまえる箱(ケース)を手作りした。箱の周囲に色紙を貼り、お部屋の明るさが増している。他の方にも好評で、皆さん、手作りのケースを愛用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く安全。手すりの設置により自立した歩行。洗身場から浴槽への手すりの為、快適な入浴ができる。色々な表示(食堂・トイレなど)があるため、介助を必要としない自立した生活が送られている。		

事業所名：グループホーム五島

作成日：平成 22 年 1 月 25 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現状における問題点や課題は見当たらないものの、本人・家族の希望を出来る限り取り入れながら、また利用者の体調等を考慮しながら、五島の自然や観光地(名所)様々な催しへの外出支援に取り組んでみたい	本人・家族の希望に出来るだけ沿った外出支援	①本人・家族からの希望を聞きながら、外出支援を行っていく。その時の入居者の体調等を考慮しながら外出支援を行う。	12 ヶ月
2	1-2		五島の名所めぐりやイベントにおける外出支援	②五島の地において未だ見たことのない観光地や行事等の情報収集を行い、外出支援を行う。また、グラスボート体験を実現させてあげたい。	12 ヶ月
3	1-3		外出を家族と共に	③外出を家族にも協力していただき、生活支援を共同で行う	12 ヶ月
4	1-4		自然を活かした交流	④自然を活かした外出により、地域住民や小学生との交流を図る。	12 ヶ月
5					ヶ月